

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス まなべる		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・必要感のあるコミュニケーション能力などを育成するプログラムの実践	・集団プログラムを体系化し、日々の取り組みの中に、ねらいを設けて、取り組んでいる。集団ゲームの中では、試しの活動、そして一つの条件(時間を短縮など)を提示し、必要感のある話し合いの場を設けるようにしている。上手にできたときは称賛の言葉を伝える。	・集団プログラムのねらいをより明確にし、1年間かけて育てたい能力を考え実践していく。一つの活動をアレンジしていくことで、子どもたちの興味関心を引きつけていく。 ・職員のアイデアを大切に、マンネリ化しないように、常に子どもたちが意欲的に取り組むように研修する。
2	・就学しての一番の問題は、学習の遅れのように思う。この遅れを取り除くような学習支援を強調して取り組んでいる。特に未就学児の指先の運動や数の概念等に力を入れて支援している。就学児については、学習の基礎となるところを繰り返し取り組むことにより、学習に意欲的に取り組む力や自己肯定感を高めることができる。	・学習の基礎の定着を目指して、算数(計算力・数や図形などの概念等)や国語(読解力・漢字練習・言語事項等)を中心に支援している。 ・学習としては、復習を中心に取り組んでいる。理解できずに苦しんでいる子どもたちに「学習の楽しさ・おもしろさ」を伝えるように支援している。	・多くを学んでもらうのではなく、必要なことを既習学習から思い出せるように支援する。「教える学習」から「自ら学ぶ学習」への転換が大切であると考えている。 ・一人ひとりの子どもが自信を持って、学びの場に参加できるように、できたときには賞賛の言葉がけを大切にしている。
3	・通所している子どもたちや保護者との信頼関係の構築に多くの時間を費やしている。職員と保護者そして通所している子どもたちとの信頼関係ができていなければ、より良い療育はできないと考えている。	・子どもたちからの訴えや保護者からの要望・悩み等には、面談をしたり、電話・LINE等で返答することになっている。そのため、様々な情報を職員間で共有し、より良い支援の在り方について、話し合い取り組んでいる。	・子どもたちの様子・動きを細かく掌握し、児童発達管理責任者を中心に全職員で悩みなどの原因について、話し合いにより、より良い支援について共通理解していくことを考えている。 子どもの些細な行動や言葉に、敏感に反応し、支援できる体制を構築していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・医療的ケアの必要な子どもや肢体不自由な子どもたちの通所に向けての問い合わせや相談はないが、今後、求められることが考えられるので、対応できるように整えておくことが必要に思う。	・専門的な技能や資格を有するスタッフがない現状なので受け入れ体制ができていない。募集しても、適任者を採用することができない。 ・他の障がいのある子どもたちへの対応で時間がかかり、手が回らない状況にある。	・募集要項の中に、前述のような資格者を広く募集し、より高度な療育を目指す上で、必要であることを強く伝えていく。
2	・子どもたちの全力で身体を動かしたりできる、スペースがあることが望まれる。	・活動の中で「静と動」あるいは「緊張と開放」というメリハリのある活動を取り入れることが、子どもたちの意欲を高めることになる。	・事業所内に卓球コーナー、ランニングマシン等の体幹や持久力を育てる器具を配置したが、より効果的に活用するために個々のカルテを作成し継続的に効果を見取っていくようにする。プログラムの中で、心と身体の解放できる場所となるように運営していく。
3			